

# 温泉再発見

5

「現代風に湯治を復活できないか」。そんな思いを込め、東鳴子温泉・旅館大沼(宮城県鳴子町)の大沼伸治さん(43)は3年前、地元の人たちと協力して「田んぼ湯治」を企画した。

一般の人に、温泉近くの農地で田植えや稲刈りなどを体験してもらい、その疲れを温泉で癒やしてもらおう。農作業と農家での昼食、それに温泉入浴がセットになって一回100円(今年と同1500円)。昨年は延べ約2500人が参加、東京などから参加した若い女性の姿も目立った。昨年、田植えから脱穀までほとんどのイベントに参加した30歳代の女性会社員(仙台市)は「自然の中で行った農作業が新鮮な体験でした。体を動かした後に入る温泉も格

別。今年も参加してみたい」と話す。

鳴子町観光農林課によると、五つの温泉地を抱える鳴子温泉郷では、1991年に年間約400万人いた観光客が4年前に半減してしまった。「宴会でどんちゃん騒ぎをするような従来の団体旅行が敬遠され、洗練された雰囲気や料理を求める個人客が増えたこと」うまく対応できなかった」と同町担当者は話す。「沈滞した地域をどうしたら元気にできるか」。リゾートホテルをまねたり、観光コンサルタントに開発計画をま

## 農作業 & 湯治 1500円なり

「健康」と「地域活性化」をキーワードにした「湯治復興」の試みは、全国の温泉地に広がっている。

かせたりする方法もあった。しかし、大沼さんたちがたどり着いた結論は、地域で続いていた湯治の魅力を提案することだった。

鳴子温泉郷では、町立鳴子温泉病院と地元旅館が連携した温泉療養プランや、市民農園での農作業と湯治をセットにした企画も始まっている。

「健康」と「地域活性化」をキーワードにした「湯治復興」の試みは、全国の温泉地に広がっている。

経済産業省所管の社団法人「民間活力開発機構」(東京)

は、温泉地に滞在して医師から温泉療養を学ぶ「健康づくり大学」を企画し、昨年9月には群馬県草津町の草津温泉



農作業を終えた後に入る温泉は格別(宮城県の東鳴子温泉・旅館大沼で)

温泉療養 病いやけがなどの治療に、温泉に含まれる化学成分や温熱、浮力などを活用する。リハビリにも応用されている。民間活力開発機構はホームページ(<http://www.onsenkyo.com/>)で情報を提供している。

で第一弾が開催された。

同機構理事長の里敏行さんは「湯治の効用を現代に取り入れ、中高年の健康づくりと温泉地の活性化が目的。すでに100近い自治体から、大

学を開催したという申し出があります」と話す。

さらに、温泉を活用した健康づくりの担い手として「温泉療養コーディネーター」の養成にも取り組んでいる。

各地に広がる「湯治復興」の試みからは、健康の増進を図る拠点として役割が増していく温泉の将来像が浮かんでくる。(室靖治、高橋直彦)

### 地元病院と連携療養プランも

(おわり)